

# 令和2年度 第3回浜松市医療的ケア児等支援協議会

日時：令和3年3月3日（水）

午後2時から

会場：浜松市役所3階 32会議室

## 次 第

### 1. 開会

### 2. 議題

- |                           |         |
|---------------------------|---------|
| (1) 全数把握調査報告              | 1～4ページ  |
| (2) 災害時支援に関する進捗状況報告       | 5ページ    |
| (3) 医療的ケア児等支援者養成研修会報告     | 6～13ページ |
| (4) 医療的ケア児等支援コーディネーターについて |         |
| (5) その他                   |         |

### 3. 閉会

## 浜松市医療的ケア児等支援協議会 委員名簿

### 外部委員

(敬称略)

所 属		氏 名	備 考
	浜松医科大学	福田 冬季子	Zoom 参加
	聖隷クリストファー大学	宮谷 恵	
会長	浜松市発達医療総合福祉センター はままつ友愛のさと	遠藤 雄策	
	総合病院 聖隷浜松病院 総合周産期母子医療センター新生児科	大木 茂	Zoom 参加
	浜松市訪問看護ステーション連絡協議会	尾田 優美子	欠席
	岡崎内科医院	岡崎 貴宏	Zoom 参加
	県立西部特別支援学校	藤田 延江	
	総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター	春日 三千代	
	浜松地区肢体不自由児親の会	里 あゆ子	
	在宅医療ケアのある子を持つ親の会	清水 恵美	
	浜松市中障がい者相談支援センター	梶村 美由紀	
	相談支援事業所アグネス	鈴木 崇之	
副会長	浜松市障がい者基幹相談支援センター	雨宮 寛	

### 庁内委員

課 名		氏 名	備 考
学校教育部	指導課	石川 博則	
健康福祉部	健康増進課	小山 東男 代理：仲谷美樹	
こども家庭部	幼児教育・保育課	山本 卓司 代理：井川宜彦	
こども家庭部	子育て支援課	鈴木 和彦	
健康福祉部	健康医療課	島 和之 代理：板倉称 新村隆弘	

### 事務局

課 名		氏 名
健康福祉部	障害保健福祉課	久保田 尚宏
		夏目 健一
		柴田 多美子
		山内 愛美

## 医療的ケア児等全数把握調査について

### 1. 対象者

浜松市在住、在宅で生活している医療的ケア児者（年齢制限なし）

### 2. 情報提供同意者数

2,079人（R3.2.1時点）

### 3. 内訳（R3.2.1現在）

年齢	実人数	医療的ケア内容（延人数）						
		人工呼吸器	在宅酸素	吸引	導尿	輸液ポンプ	経管栄養	透析
0～2歳	28	5	9	13	0	0	16	0
3～6歳	30	12	18	23	0	0	22	0
7～17歳	82	18	26	46	8	4	47	0
18～64歳	471	46	63	68	5	5	49	307
65歳以上	1,468	32	349	89	5	1	31	874
計	2,079	113	465	239	18	10	165	1,181

※上記以外の医療的ケア：インシュリン注射、吸入、ストマ、在宅持続陽圧呼吸療等

### 4. 人口割合

年齢	人口(R2.10.1現在)	医療的ケア児者人数	割合
0～2歳	17,709	28	0.16%
3～6歳	26,990	30	0.11%
7～17歳	81,408	82	0.10%
18～64歳	452,315	471	0.10%
65歳以上	222,338	1,468	0.66%

### 5. 今後の新規ケース把握について

- ・各区社会福祉課にて手帳や医療等に関する手続きの際、対象者へ案内チラシ等を配布
- ・NICUのある市内基幹病院へ案内チラシを配架、または医療相談室等から案内チラシ等を配布（調整中）
- ・特定相談支援事業所が対象者を把握した際、案内チラシ等を配布
- ・市内訪問看護ステーションへの「訪問看護の情報提供書」提供依頼継続

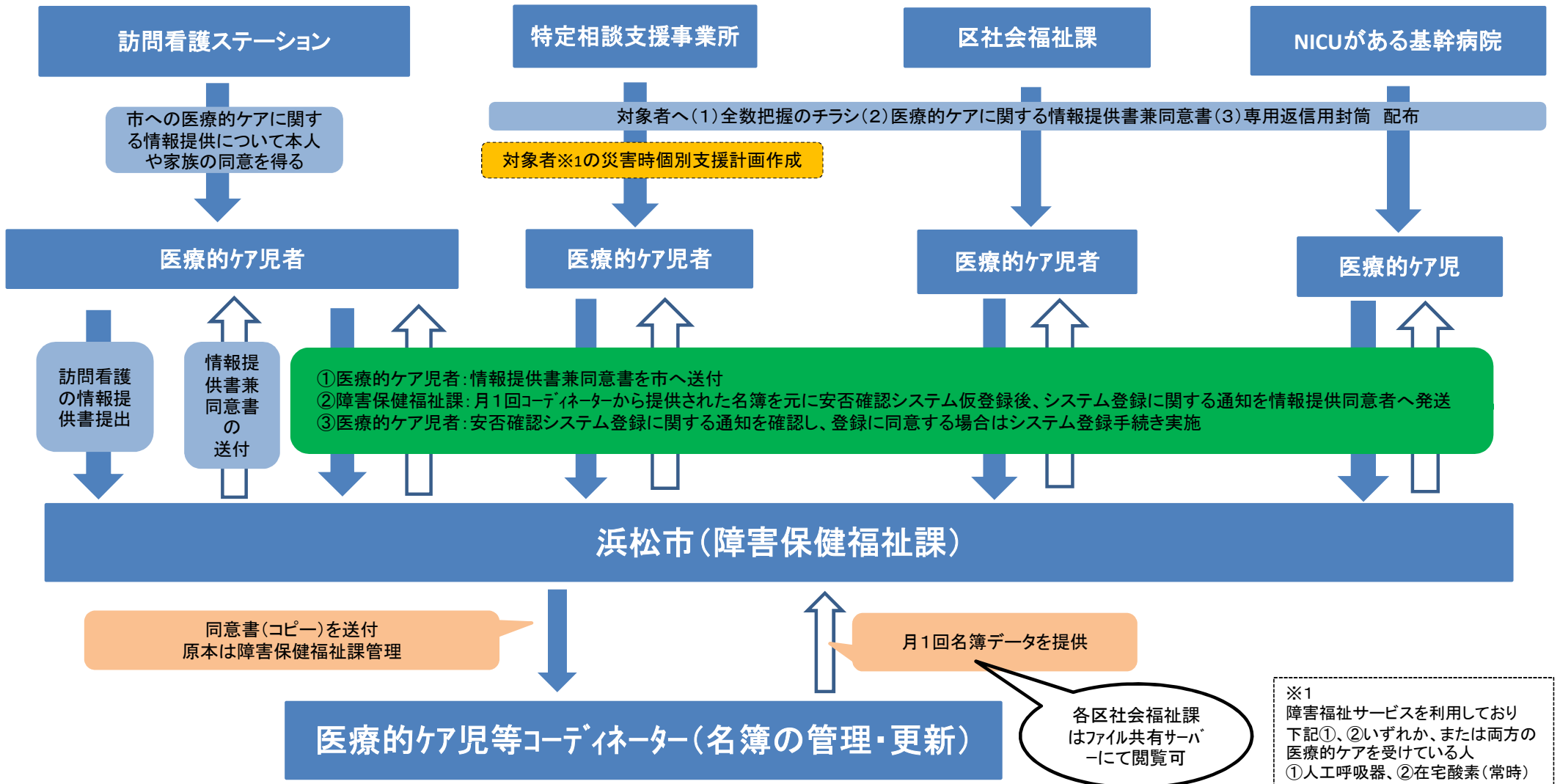
# 【調整中】 医療的ケア児等の新規ケース把握の流れ

【目的】 医療的ケア等への支援体制整備、災害時支援

【把握対象者】

浜松市在住、在宅で生活しており、下記①～⑨いずれかの医療的ケアを受けている方（NICUがある基幹病院は、0～18歳未満のみを対象）

①人工呼吸器管理 ②在宅酸素療法 ③人工透析 ④在宅中心静脈栄養 ⑤気管切開 ⑥痰吸引 ⑦導尿 ⑧経管栄養（経鼻、胃ろう含む） ⑨インシュリン注射



# 浜松市医療的ケア児・者 全数把握調査について(お願い)

## <対象者>

浜松市在住で在宅で生活しており、下記いずれかの  
医療的ケアを受けている方

- ①人工呼吸器管理 ②在宅酸素療法 ③人工透析
- ④在宅中心静脈栄養 ⑤気管切開 ⑥痰吸引 ⑦導尿
- ⑧経管栄養(経鼻、胃ろう含む) ⑨インシュリン注射

## <調査内容と回答方法>

「医療的ケアに関する情報提供書兼同意書」を記入後  
専用返信用封筒にて市役所へ郵送  
※郵送料の負担はありません。



## <提供いただいた情報の活用>



- ①災害時の安否確認や福祉難所等の情報提供 #1
- ②医療的ケアが必要な方に関わる機関との情報共有 #2
- ③医療的ケアが必要な方への支援体制構築

#1 後日障害保健福祉課から発送する『安否確認システムへの登録のお願い』を確認し、システムへの登録をお願いします。

#2 情報共有を想定する機関: 医療的ケア児等コーディネーター、医療機関、訪問看護ステーション、相談支援事業所、ケアマネージャー、サービス事業所、学校、在宅酸素や人工呼吸器業者等

## <★重要★メールの受信について>

安否確認システムの登録等、市からメールにてご連絡をさせていただくことがありますので、こちらのメールアドレス(syoghuku@city.hamamatsu.shizuoka.jp)が受信できるよう設定をお願いします。

## <情報の管理について>

障害保健福祉課にて個人情報の取扱いに十分注意して管理し、目的外使用はしません。

問合せ先 浜松市役所 障害保健福祉課  
生活支援第2グループ  
連絡先: 457-2863

# 医療的ケアに関する情報提供書兼同意書

浜松市長

別紙『浜松市医療的ケア児・者全数把握調査について(お願い)』を確認し、下記①～③に関して

- ①医療的ケアに関する情報
- ②浜松市が管理している手帳や福祉サービス等情報の活用
- ③浜松市と医療的ケア児等コーディネーター及び下記表に記載のある関係機関との情報共有

同意します 他機関で提供済(提供済機関: ) 不同意

令和 年 月 日 氏名

代筆者 続柄

本人が署名できない場合や対象者が未成年の場合は、保護者等の代筆者による記載をお願いいたします。

同意された方は下記をご記入下さい。 ※は記入必須項目です。

ふりがな ※患者氏名		性別	男・女
※生年月日	S / H / R 年 月 日 ( 歳)		
※住所 連絡先	〒 区	自宅電話番号	エレベーター 有・無
※携帯番号 メールアドレス	※浜松市 (syogfuku@city.hamamatsu.shizuoka.jp) からのメールを受信できるよう設定をお願いします。		
	所有者	携帯番号	メールアドレス
※家族構成	主たる介護者には◎をつけてください。		
※病名	医療的ケアが必要となる病名を記載してください。		
※医療的ケアの内容	受けている医療的ケアの内容に○をつけて下さい。 人工呼吸器(常時・随時)・気管切開・吸引・在宅酸素(常時・随時)・輸液ポンプ 導尿・経管栄養(経鼻・胃ろう・その他)・人工透析・その他( )		
アレルギー	有( )・無		
手帳・医療等 受給状況	身体障害者手帳 有( 級)・無 療育手帳 有( 級)・無 精神保健福祉手帳 有( 級)・無	更生医療・育成医療・重心医療 小児慢性・未熟児養育医療 その他( )	
関係機関 利用している サービス等 (複数記載可)	関係機関、利用しているサービスや事業所名についてご記入下さい。		
	受診医療機関		
	訪問看護		
	就園先、就学先		
	相談支援事業所 ケアマネ		
	短期入所		
	居宅介護		
	生活介護		
	児童発達支援 放課後等デイサービス		
	人工呼吸器 在宅酸素業者	連絡先	
その他	利用しているサービスと事業所名をご記入下さい。		
※人工呼吸器	無・有	製品名( )	
※外部バッテリー	無・有	発電機・蓄電池・太陽光による自家発電・自動車	
※吸引器	充電器付	有・無	足踏み式等非電源式 有・無

## 医療的ケア児者に関する災害時支援について

### 1 支援方法

- ・安否確認システム登録
- ・災害時個別支援計画の作成

### 2 対象者

安否確認システム	災害時個別支援計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工呼吸器（常時・随時）</li> <li>・在宅酸素（常時・随時）</li> </ul> ※上記医療的ケア以外は、福祉避難所等の情報発信のみ。	障害福祉サービスを利用しており、下記①、②の医療的ケアのいずれか、又は両方を受けている人 ① 人工呼吸器（常時） ② 在宅酸素（常時） ※人工呼吸器、在宅酸素共に随時利用者は本人の状況、自助の備え等を勘案し支援計画作成の必要を判断。

### 3 進捗状況

	対応	今後の対応
R3.1	人工呼吸器、在宅酸素を取り扱っている業者（帝人、フィリップス）と災害時支援についての情報共有	災害時連携について調整継続 その他業者との情報共有は順次対応予定
R3.1～R3.2	人工呼吸器使用者（対象：77名）への安否確認システム登録通知発送	メール配信訓練実施予定
R3.2.8	相談支援専門員連絡会にて災害時個別支援計画作成についての説明と依頼	各相談支援事業所へ対象者名簿提供

### 4 発動発電機、人工呼吸器用外部バッテリーの支給状況（日常生活用具費の助成）

支給人数（実）	内訳
80人	0～18歳未満：40人、18歳以上：40人

# 令和2年度 浜松市医療的ケア児等支援者養成研修実施報告



浜松市 障害保健福祉課

1

## 研修会概要

日程	研修内容	講師
10/7	子どもの医療的ケアの概要	発達医療総合福祉センター 遠藤雄策医師
	医療、訪問看護、福祉、教育、行政の 各分野の機能と課題について	聖隷浜松病院 大木茂医師 訪問看護ステーション住吉第2 松下麻里子看護師 相談支援事業所ぶえんて 森下絵里相談員 指導課 桜井利幸指導主事 障害保健福祉課
10/25	聖隷浜松病院における医療的ケア児の退院支援	聖隷浜松病院 井上景介MSW
	在宅生活を支える家族の思いと支援者へお願いしたいこと	ぞうさんの会代表 清水恵美氏
	地域で当事者を支える仕組み	児童発達支援センターひまわり 内藤由美施設長 西部特別支援学校 矢部規予先生 おおぞら療育センター 篠ヶ瀬信行相談員
11/5	小児看護フィジカルアセスメント 呼吸編	聖隷浜松病院 林美恵子看護師、高真喜看護師

2

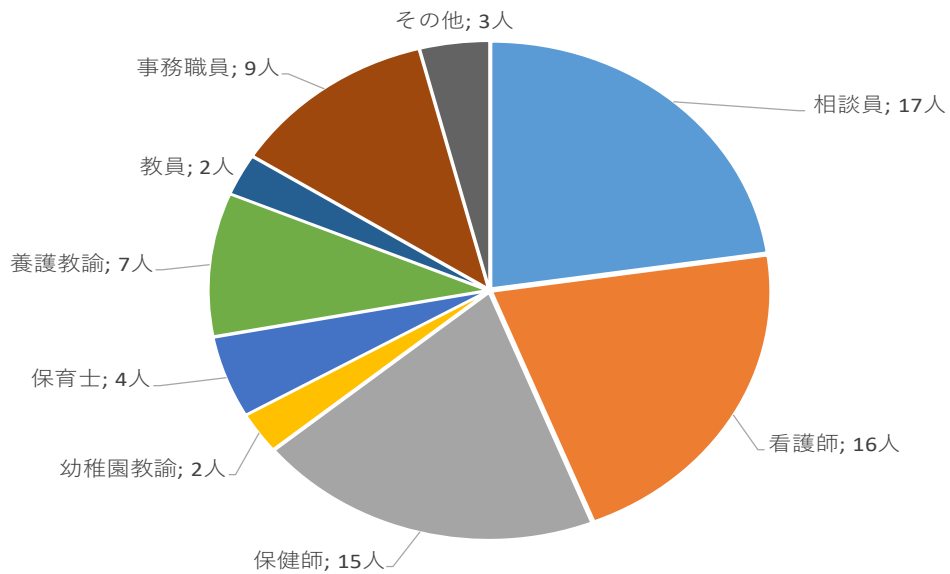


## 参加者数

日程	参加者数	アンケート回収数	アンケート回収率
10月7日 基礎編	75人	60	80%
10月25日 発展編	73人	34	46.5%
11月5日 看護研修	36人	20	55%

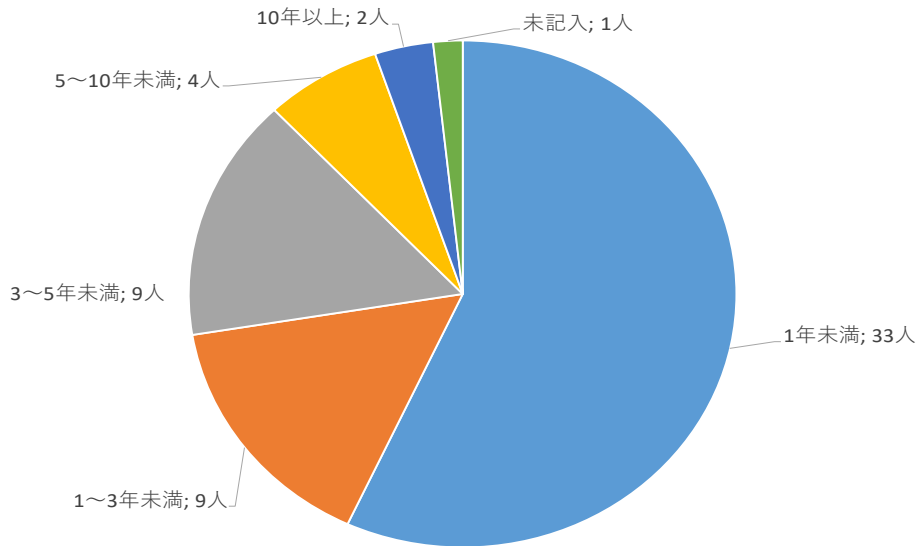
3

## 参加者内訳



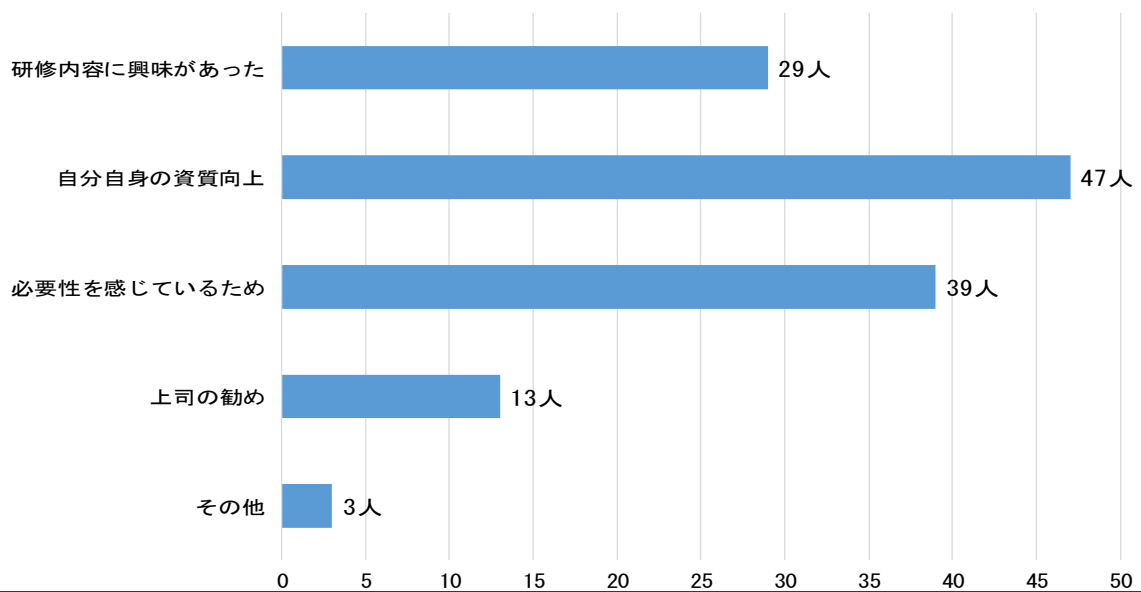
4

## 参加者の経験年数 (医療的ケア児等に関して)



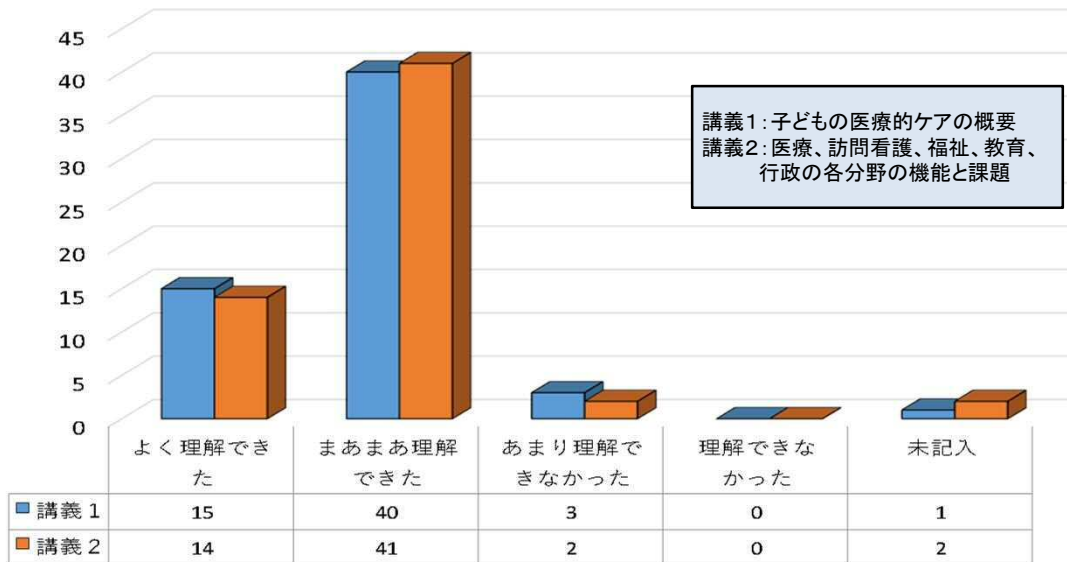
5

## 受講理由(複数回答可)



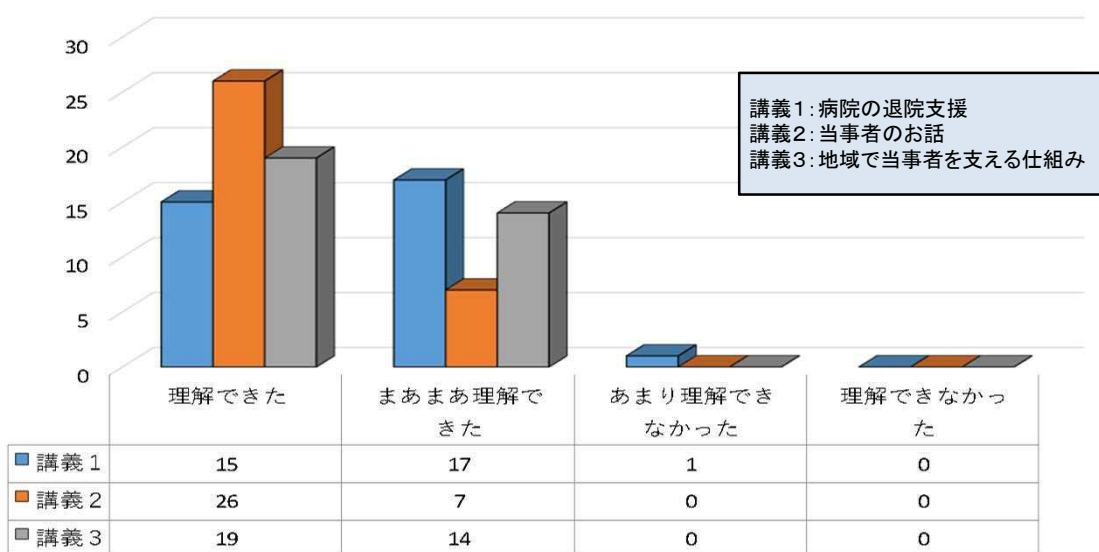
6

## 10/7研修(基礎編)の理解度



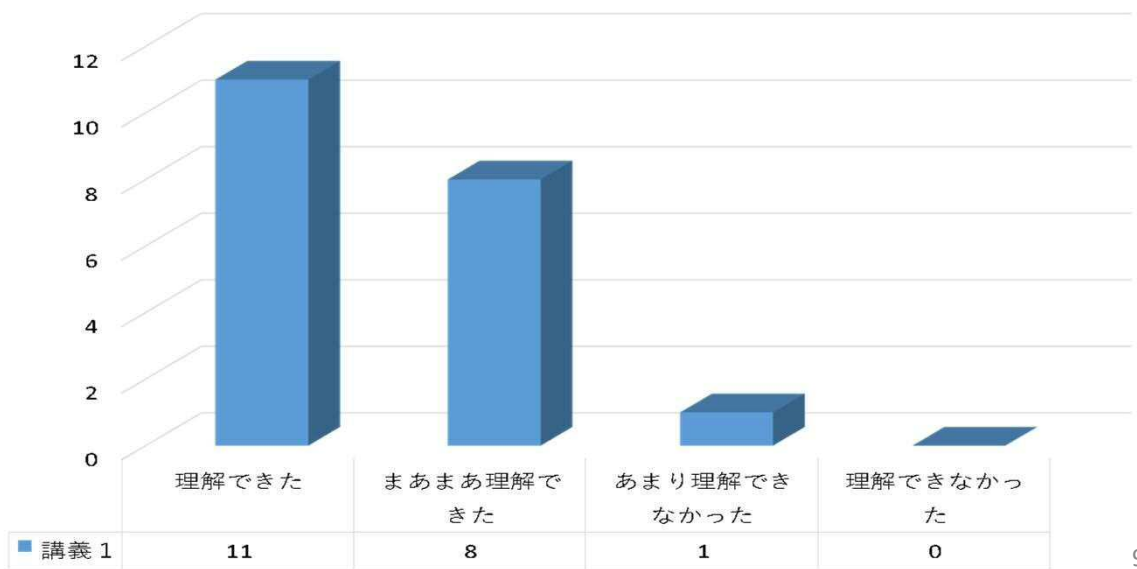
7

## 10/25研修(発展編)の理解度

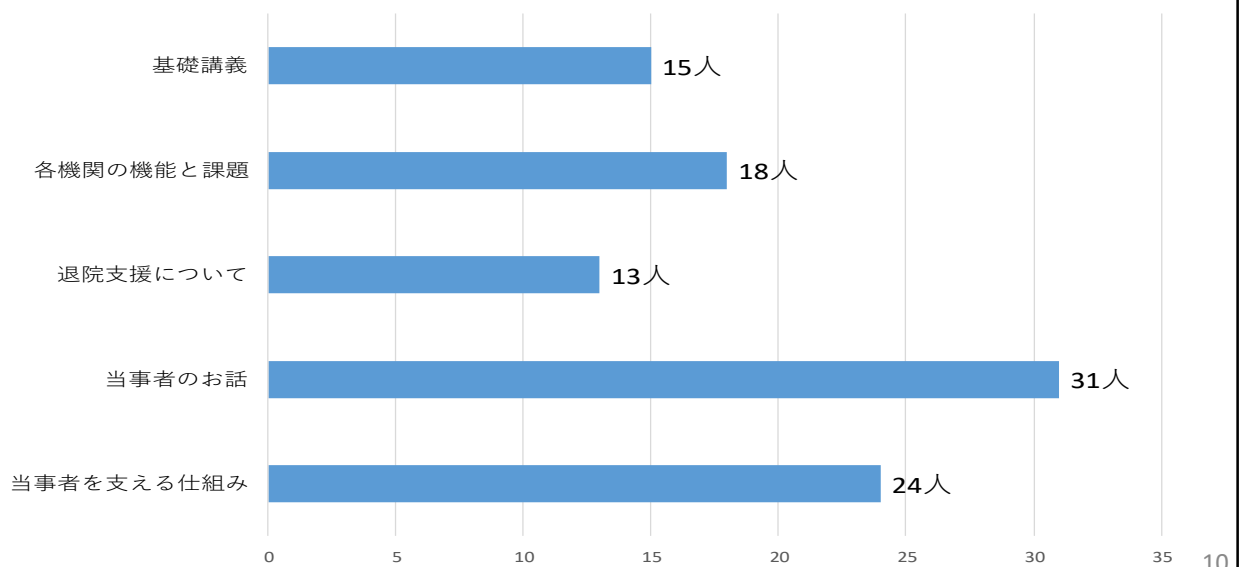


8

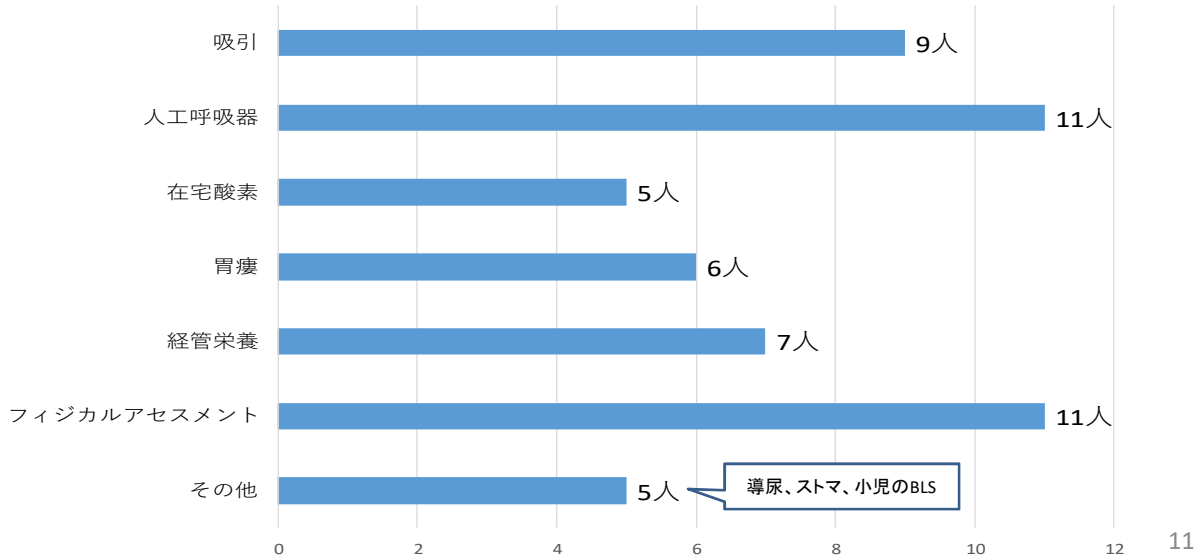
## 11/5研修(看護研修)への理解度



## 研修で良かった内容(複数回答可)



## 学びたい看護実技(複数回答可)



## 10/7研修(基礎編) 感想、学んだこと

- ・基本的なことを学ぶ良い機会だった
- ・写真がたくさん使っておりわかりやすかった

- ・色々な機関の現状と課題が知れたことで、全体像が掴みやすかった

- ・医療的ケアは身体症状に目がいきがちだが、本来は本人や家族の状況を把握して関わるのが大切だと実感した

- ・災害時の課題や対応について詳しく知る機会がなかったので話が聞けて良かった。災害時の支援充実や各機関の役割調整を早急に進める必要があると感じた

- ・まだまだあまり知識がないため内容的にボリュームが多く、理解しきれなかった
- ・医療の専門用語が多く、共通言語ではないと感じた

12

## 10/25研修(発展編) 感想、学んだこと

- ・日頃、医ケア児に関わる機会がほとんどないので、動画はイメージが付きやすかった
- ・支援機関(特別支援学校、おおぞら療育センター、児童発達支援センターひまわり)については「なんとなく知っている」程度だったので、支援内容について具体的に知ることができて良かった
- ・今回の研修を受けたことで、相談の際に紹介できることが増えたと思う
- ・当事者の思いや考え方を直接聞くことができ、支援者として気づかされるが多かった
- ・医ケアの難しさばかりに注目していたが、子どもの成長に寄り添う視点、医ケア児の心を育てるケアも大切だと感じた
- ・つい難しく考え、線をひきがちだが、まずは知ることが支援の第一歩であると思った

13

## 11/5研修(看護研修) 感想、学んだこと

- ・講師の説明がとてもわかりやすかった
- ・日頃から子どもの様子をしっかりと見ることで、変化に気がつくことができることがわかった
- ・第一印象を大切にすること、呼吸窮迫と呼吸不全の違いについてわかりやすく教えてもらったので良かった
- ・小児の呼吸の緊急時のアプローチ手法について系統的にアセスメントしていく方法がわかった
- ・この研修を受けて病院スタッフとの敷居が低くなったと思う。このような関係ができる研修会が本当に必要だと思った
- ・最後の質疑応答の時間は、医師も含めて様々な方面から質問や回答が聞けたことで励まされた
- ・医学的な専門用語が難しく、わかりづらかった

14



## 研修に関して参加者からの意見・感想

### 学びたい内容、理解を深めたい内容

- ・医ケア児を受け入れた学校、保育園、幼稚園の話が聞きたい
- ・多職種が関わる上での連携のコツ、連携したからこそうまくいった事例などを知りたい
- ・それぞれの支援機関の報告だけでなく、支援機関同士のディスカッションがあると良い

### 看護研修

- ・実際に起こりえる判断に困るケース(カニューレの異常等)など事例を元に具体的なケーススタディができるとよい
- ・看護実習は実技実習があった方が理解が更に深まる

### 研修の開催方法等

- ・関わり始めの支援者向けの研修があると良い
- ・医ケア児の災害支援に特化した研修があっても良いのではないか
- ・Web研修は移動の手間がないため気軽に受けられるのが良いが、参加者同士の顔が見える関係は作りにくい

### その他

- ・医療的ケア児を受け入れるにあたり、上司を含めてこのような研修を受けられる機会が必要
- ・ライフステージに応じた支援機関の関わりが見える図のようなものがあると良い

15

## 令和3年度研修会について

### 受講者の経験レベルに合わせた研修

- 基礎コース(初心者向け)、発展コース(経験者向け)の2講座を開催

### 医療的ケア児等を支援する機関についての更なる理解

- 現在、医療的ケア児者に関わる各機関の機能について「医療」「訪問看護」「福祉」「教育委員会」「行政」より報告をしているが、医療的ケア児を受け入れている「保育園」「学校」等の報告を追加
- 事例を元にした支援機関によるディスカッションを実施し、各支援機関の機能、役割、視点について理解を深める

### 幼保、学校向けの看護研修の開催

- 看護職以外の支援者は、医療的ケア児者に関わる上で「知っていて当たり前のこと」(緊急時の対応、専門用語等)について研修を受ける機会がないことから、看護職以外の支援者を対象とした研修を開催

### 関係機関、支援者同士がつながれるきっかけづくり

- グループワーク等、支援者同士がつながりを持てるような研修内容の企画

16